

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 読書「量」は、学びの「質」に
転化し得るか？
コミュニティ・ケアセンター所長
文学部教授 熊本 史雄
- 「大人数授業は改善可能か？」
経済学部教授 小栗 崇資
- 平成 28 年度
新規採用教員オリエンテーション
- 平成 27 年度活動報告
- FD 推進委員会の今後の予定

読書「量」は、学びの「質」に転化し得るか？

コミュニティ・ケアセンター所長
文学部教授 熊本 史雄

日本人の活字離れが唱えられて久しい。日本人の読書量が減ったのは、いつ頃からだろうか。確たる証拠はないが、ここ 10 年間の駒大生も、この例に漏れないと感じている。

教員の立場からすれば、学生には少しでも多くの書物を読み、沈黙考してもらいたいと願ってしまう。歴史学を専攻する私にすれば、歴史学科の学生には、先行研究のみならず同時代の史料を多く読み解き、そこから自らの力で歴史像を紡いで欲しいのである。

そうした思いから、ゼミ生（歴史学科では 3 年次からゼミ開始、3・4 年生個別に指導）には、なるべく多くの文献を読ませようと努めてきた。報告準備における文献講読の目安は、200～300 ページ。熊本ゼミは在籍者が多く（1 学年あたり約 30 名）、1 コマに 2 名を割り当てても、ゼミ生 1 人あたり年間 2 回しか報告の機会を巡ってこない。それでも、報告担当者にこの程度の準備を課し、かつ担当者以外の学生にも課題図書（文献）を毎週 30～40 ページ程度読ませているので、量としてはまずまずだと考えていた。

ところが、こうした考えは一変した。2013 年に一年間の在外研究の機会を得て、ロンドン大学の LSE (London School of Economics and Political Science) に留学したときのことである。毎週、同じ授業で顔を合わせる中国人女性留学生がいた。彼女はいつも大量の本を抱えている。感心しつつも、半ば興味本位で聞いてみた。「毎週、どのくらい読んでいるの?」。返ってきた答えは、「500 ページ」。予想を超える返答に驚愕し、興味本位で聞いた自分を恥じた。と同時に、これまでの自分の学生指導のあり方の再考を迫られた。彼女にとって、英語はむしろ非母国語である。にもかかわらず、毎週 500 ページを読んでくる。それだけの読書量をコンスタントに積み上げれば、1 年（年間 30 コマ）で約 1 万 5000 ページを読むことになる。これは、熊本ゼミでの約 10 倍に相当する。差は広がるばかりだ。

たしかに 1 週間で 500 ページを精読するのは難しいだろう。斜め読みや拾い読みをしている箇所もあるかも知れない。それでも、これほどの「量」を積み上げれば、かなりの部分が「質」に転化しているに違いない。現に、ゼミでの彼女の質疑応答のレベルは、すこぶる高い。世界屈指の有名大学と駒大とを一概に比較できないが、どれ程の読書量が適切なのだろうか。その答えは、いまだ模索中である。

連載企画：よりよい教育のために

「大人数授業は改善可能か？」

経済学部教授

小栗 崇資

私の授業（財務会計論）の受講者数は約 500 名である。かつてはどの大学も大人数授業は当たり前であったが、そのような授業において教育効果を上げることは難しい。大人数授業そのものをなくしていく努力が、今や必要になってきている。調べてみたが、海外の大学では小人数授業が主流となってきている。フィリピンでは政府の指示で大学の授業は 47 名以下にすることになっているという。時としては有名教授の講義が何百名という場合があるが、世界的には 20 名から 40 名程度の授業が普通のようなのである。

FD やアクティブラーニングを本当に具体化するためには、小人数授業の実現しかない。駒澤大学の場合、経済をはじめとする社会科学分野の学部で大人数授業が多いので、そうした学部には何らかの構造的な改善が求められている。新しい 130 周年記念講義棟の使用が平成 30 年からスタートし、9 号館にあった 500 名収容可能な教場がなくなるが、そうした機会に大人数授業をなくしていかなければならない。せめて上限を 200 名程度にして中人数授業に変えていく努力が必要ではないか。そのためにはコマ数の増大を規制するのではなく、実情に応じて、当局は大人数授業のコマ分割を進めていただきたい。

もちろん大人数授業においても授業改善が重要であることはいうまでもない。私なりの試みは次のようである。

ほぼ毎回、授業の最初にクイズを出すことにしている。クイズには授業の内容を予告するような面白い問いが作っており、選択肢の中から答えを考えることができるようになってきている。そして全員に手を上げさせて、ゲーム感覚でクイズを行う。「授業に参加した気分になる」ということで、学生の評判は良いようである。また、タブレットを使ってテキストを AV 機器の画面に表示し、電子ペンで重要箇所を赤線を引いたり、文

字を書き込んだりして、学生の関心をテキストの内容に引き込む試みを今年度から始めている。ほぼ全員がテキストを開いて、自分なりの書き込みをするようにさせているが、多くの出席者が静かに授業に集中している様子を見ると効果が上がっているのではないかと感じている。

クリントン政権の労働長官であったロバート・ライシュ教授の授業を映画にした「みんなのための資本論」を見て感動したが、数百名の学生が教授の問いかけにクリッカーと呼ばれる手元の IT 機器で答える場面があった。学生の回答が瞬時に正面の画面に表示され、それをまた教授が論じるというような双方向のやりとりがなされていた。大人数授業でも IT を活用すれば、授業をアクティブにさせることは可能であると痛感させられた。

大人数授業を減らす対策と、大人数授業を活性化させる工夫の双方の改善努力をしなければならないのである。FD の範囲を超える問題を含んでいるが、そうした問題に取り組むことは FD にとっても喫緊の課題であるように思われる。

 平成 28 年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も 4 月 1 日に今年度より新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員 15 名、非常勤教員 50 名の計 65 名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では廣瀬良弘学長より本学の建学の理念について、猿山義広教務部長より本学の教育方針等について、FD 推進委員会小委員会委員長の飯塚大展先生（仏教学部教授）より本学の FD 活動について説明をいただき、事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet（コマネット）」、「ユーザー ID」、「YeStudy（e-learning）等の利用について」）、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に関係する説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室および AV 教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から公的研究費、教員教育研究費等に関する説明を行いました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成28年4月1日（金）14:40～16:00

2. 出席者数

65名（案内状発送165名）

3. オリエンテーション次第

- ・学長挨拶
- ・教務部長挨拶
- ・FD推進委員会小委員会委員長挨拶
- ・大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）
- ・質疑応答

質疑応答後、希望者を講師控室、AV教場に案内した。



（オリエンテーションの様子）

平成27年度FD推進委員会及び小委員会の活動報告

平成27年

4月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催
- ・第1回FD推進委員会及び小委員会を開催

6月

- ・第2回FD推進委員会（臨時）及び小委員会を開催
- ・第3回FD推進委員会小委員会（臨時）を開催
- ・2015年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施

- ・FD NEWSLETTER 第43号を発行

7月

- ・第3回FD推進委員会（臨時）を開催
- ・第4回FD推進委員会小委員会を開催

9月

- ・FD NEWSLETTER 第44号を発行

10月

- ・第4回FD推進委員会小委員会を開催
- ・第5回（臨時）FD推進委員会を開催

11月

- ・2015年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施

- ・平成27年度公開授業の実施（12月7日まで）

12月

- ・FD NEWSLETTER 第45号を発行

平成28年

1月

- ・第6回FD推進委員会小委員会を開催
- ・平成26年度FD研修会を実施

2月

- ・第7回FD推進委員会小委員会を開催

3月

- ・第5回FD推進委員会を開催
- ・第8回FD推進委員会小委員会（臨時）を開催
- ・FD NEWSLETTER 第46号を発行
- ・平成27年度『FD活動報告書』を発行

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成 28 年度第 3 回FD推進委員会小委員会
平成 28 年 7 月 4 日（月） 16:20 ~

※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

~2016 年度「学生による授業アンケート」(後期) 実施のお知らせ~

実施期間：平成 28 年 11 月 9 日（水）~30 日（水）

**対象科目：全科目対象（集中講義科目、演習科目、
受講生が 20 名未満の科目は除く）**

**※WEBによるアンケートを実施しています（PC、
スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用し
て回答されます）。**



編集後記

今年度最初の『FD NEWSLETTER』（第 47 号）がこのたび発行されましたので、ここにお届けいたします。

今回の巻頭言は、コミュニティ・ケアセンター所長の熊本史雄先生にご執筆頂きました。熊本先生には、教育研究業務に加え所長業務で忙しい中ご執筆くださいましたことに改めて感謝申し上げます。

また連載企画「よりよい教育のために」につきましては、経済学部教授の小栗崇資先生にご執筆頂きました。心よりお礼申し上げます。

新年度が始まって約 3 ヶ月が経過しております。今年度のFD活動もすでにスタートしており、4 月に開催された新規採用教員オリエンテーションには、専任 15 名（全員）、非常勤 50 名の先生方がご参加くださいました。

「学生による授業アンケート」については、前期科目分がすでに 6 月中に実施されております（後期科目・通年科目は 11 月 9 日から 30 日にかけて実施されます）。今年度は、アンケートの文言が一部修正されたほか、一部設問において選択肢が拡充された点、教員自由設定質問が再び設けられた点などが前年度からの変更点です。FD 研修会と公開授業については、内容のさらなる充実と参加者数の増加をめざし、現在小委員会で検討しているところです。また継続案件となっている FD Award 制度案と学生 FD サポーター制度案については、各学部等から出された意見をもとに小委員会で議論を積み重ね、各学部等と意見交換が続けられております。

FD 活動をさらに推進していく上では、さまざまな課題があることも事実ですが、本学の教育水準のさらなる向上に向け、教職員の合意形成を図っていくことが大切です。
(小林正人、長尾譲治)

【タイトル横の写真は、本部棟と記念講堂】

FD NEWSLETTER Jun. 2016 第 47 号

発行日：2016 年 6 月 30 日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

Tel 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)